

こんにちはは 健保組合です！

コイデ陸運株
〔旧小出運輸株〕



暦の上ではもう九月、初秋という言葉を使わ時期というのに記録的な猛暑が続く、各地の気象観測の記録を次々と塗り替えていった今年の夏を彷彿とさせるような日差しがまだまだ残るなか、九月十二日に事業所訪問の第一回目としてお邪魔したのは、市原市にあるコイデ陸運株式会社でした。

前回から健康管理事業等推進委員会の指導宣伝部より委員の方に取材に同席していただくこととなり、今回は君津市の京葉港運株式会社伊田課長に業務ご多忙のところ同行していただくこととなりました。同氏には、私たち事務局では分からない運送業界の機微を助言いただき、取材がスムーズに進行したことは言うまでもありません。

乗務員の検診嫌いの傾向は 近年変わりつつある

コイデ陸運は、本年九月に小出運輸有限会社から社名変更されました。私たちはそのいきさつも取材できたらと、今回の訪問先とさせていただきました。伊田課長とは現地まで待ち合わせるこ

ととし、私たちは国道一六号線を南下しました。いわゆる産業道路とよばれているこの道路は、京葉工業地帯に欠かすことのできないもので、慢性化する渋滞にその対策を望む声も多く、高速道路の整備等が推し進められていいます。それはさておき、私たちがこの道を利用する際、つい最近までは「車の量が減っている」と感じていたのですが、今日を見る限りでは「経済も徐々に回復しているな」と実感できるような交通量でした。

そうこうしているうちに、私たちは今日の目的地に到着しました。市原市青柳にコイデ陸運はありましたが、この辺りは多くの企業が集中しています。非常に交通の便のよい環境にあると感じたのですが、後の取材でお聞きしたところによると、都市計画道路の一角に該当してしまう企業は移転を余儀なくされるとのこと。同社に至っても長年住み慣れた地を離れて、近い将来再出発をされるとお聞きしました。「よい代替地が見つかった」とあわせてお聞きできて、私たちは安心しました。

●右から
小出利治社長、小出譲治副社長
伊田課長<京葉港運株>



一階事務所のドアを開け「こんにちはは健保組合です」とあいさつを申し上げると、当健保の理事をお願いしている小出副社長が執務をされておりましたが、「ようこそ」と出迎えてくださいました。

二階の社長室に案内され、今日の取材のために日程を調整してくださった小出社長（副社長のお父さまです）が御同席くださいました。

事務局から恒例の健康保険組合の概況をご報告し対談が始まりました。

最初の話題は健康管理についてでした。小出社長は「従来、乗務員は検診嫌い」とおっしゃられ、「健康管理に対して無関心」と続けられました。「その傾向は近年変わりつつある」と小出副社長が言葉を添えられました。「人材を大切にする観点からもその認識の高

場のために経営者は教育する必要がある」と、ニューリーダー的な発言に私たちは共感しました。

そして、社長ご自身の健康について話題は移行しました。氏は、失礼ながら見られるに頑強そうなおからだをしておられますが、その裏付けに「大きな病気はしたことがない。健康管理にはとくに気を使ってはいない」とおっしゃられました。聞くところによると業務柄飲むことの多いお酒を自宅ではほとんど口にしないとのこと。かつてはかなりの量を飲んでおられたようですが、私たちは企業トップとして社のごこと、従業員のごこと、家族のごことを考える気持ちが無意識のうちに節制につながっているのではと、推測したのですが……。

お若いころ、車が大好きで仕事を苦にせず相当無理をされたとお聞きしました。その代償が来る前に、これからはしっかりと健康管理をしていただきたいと、私たちはお願いしました。

社名変更、新社屋のオープン、 創立三〇周年が同時期に重なる

それから、私たちは、同社の歴史についてお聞きしました（この辺りで社名変更のいきさつがお聞きできそうです）。

もうすぐです。皆さんの健康は誰も守ってくれません。皆さん自身で守つ

てくださいね！

コイデ陸運の前身である小出運輸は昭和四十年四月の設立、当時はのりの配送等さまざまな業務をうけ持つておられたそうです。その後、市原の工業地帯に企業が進出したことよって業務も大きく変わってきたようです。そしてご苦労された長い年月を経て、平成七年には創立三〇周年を迎えられることになりました（おめでとーございます）。その記念すべき区切りと自ら望んだわけではありませんが、新社屋のオープン、それに社名変更がほぼ同時に重なったそうです。社名変更については、同社には兄弟会社があり、小出社長は「二人の息子にそれぞれひとつの会社を」と、がんばってきたとおっしゃっておられました。副社長以下ご子息そろっての意見は「合併」で意志統一されたそうです。

「二人で同じ業種に生きるのなら、ひとつの企業を力を合わせて……」と考えられたそうで、私たちは「二本の矢」を思い出し、今後ますます進み続ける企業となられることを祈念いたしました。

「世代交代を円滑」して変革を「 社長の後継者」への「対」の哲学

小出社長は早くから引き継ぎを考えておられ、自らの身を引くことを考

ておられるようでした。そんなことから「父には、若いときから社会に出る機会を与えてもらった」と副社長が感謝しておられるように、後継者づくりに対する哲学を持つておられるようでした。「これからの運送業は世代交代を円滑にして変革していかなければ」とこの話題を締めくくられました。同社はそれを実践して業界のイニシアチブを取っていかれることでしょう。

こうして話題は多岐にわたりましたが、タイムリミットになりましたので、今日の取材を終えることといたしました。ご協力ありがとうございました。

帰り際に、副社長から「どうかこれ」とお見せいただいたのは、名刺に刷り込んだある同社のロゴマークでした。コイデ陸運のKを図案化されたのだそうですが、「イメージは？」とお聞きすると、「海・山・空」とおっしゃられ、とてもさわやかなできばえとお見受けしました。今後の社の基本姿勢とダブらせてこのロゴをかわいがっていかれるそうです（健康保険組合のロゴもなかなかだと思いませんか）。

今年の夏は冒頭申し上げたとおり猛暑の連続で、きつからだは疲れています。休養、栄養、運動で心とからだをリフレッシュするには最適の季節は